

ハヤブサの繁殖状況調査

2025年 年次報告

泉大津ハヤブサ・サポート倶楽部
瀬戸内海ハヤブサ研究会
バードリサーチ
北陸鳥類調査研究所



ハヤブサ（阪上幸男）

ハヤブサの繁殖モニタリングにご協力いただきありがとうございます。50名の皆様から情報を提供いただき、全国145地点から、のべ374件のハヤブサの繁殖情報をいただきました。調査への参加／ご協力ありがとうございました。そのうち、2025年については、85地点の情報が届いていますので、以下にその結果をまとめます。

まだお送りいただいていない今年（あるいは過去の）情報をお持ちの方は以下のフォームよりお送りください。データベースに登録して今後のモニタリングのために活かします。

<https://www.bird-research.jp/k/ueta/hayabusa/index.html>

2025年の繁殖成功率

84地点の情報のうち、7地点では生息を確認できませんでした（図1）。さらに繁殖の成否が確認できなかった21地点を除いた56地点のうち、成功した割合は75.0%でした（図1）。平均巣立ちヒナ数（±標準偏差）は繁殖に失敗したものを含めると 1.4 ± 1.1 羽、成功したもののみでは 1.8 ± 0.9 でした。繁殖成績には年変動があるので、これから数年で得られる情報が、現状のハヤブサの繁殖状況のベースとなる値となります。

現在、レッドリストでは絶滅危惧Ⅱ類に選定されています。個体数が回復していることから、オオタカと同様に準絶滅危惧へのランクダウンや、国内希少野生動植物種からの解除が将来検討される可能性があります。その検討のためには、繁殖成績の情報も蓄積していくことが必要です。現在 ハヤブサの全国的な繁殖成績の調査は行なわれていないので、今後も情報を蓄積していき、適切な検討がされるよう、貢献したいと思います。

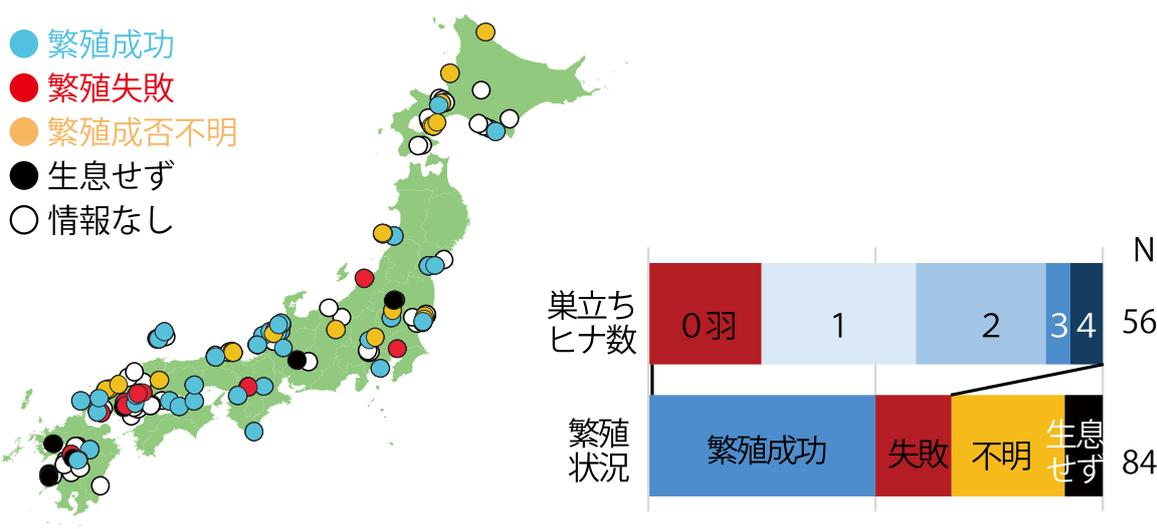


図1 調査に寄せられたハヤブサの分布と2025年の繁殖成績。

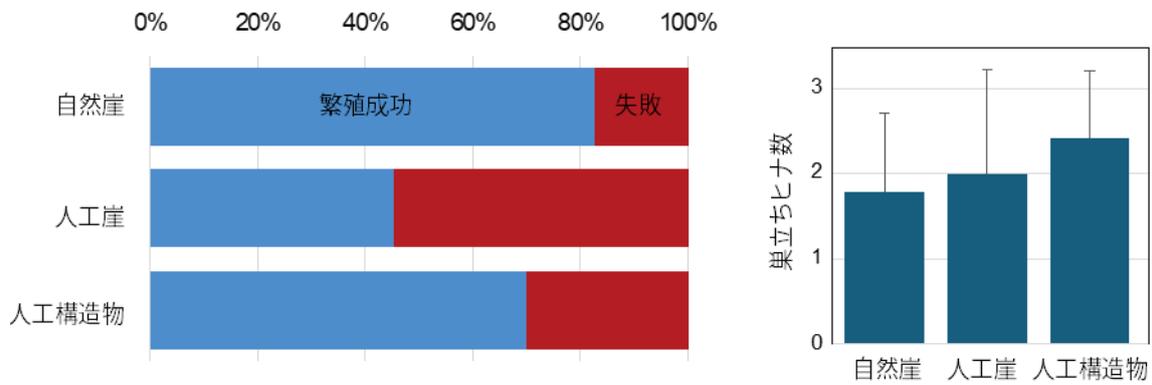


図2 営巣地のタイプ別の2025年のハヤブサの繁殖以降率と、繁殖に成功した場合での平均巣立ちヒナ数(+標準偏差)。

繁殖成績は過去から低下？

過去の全国的なハヤブサの繁殖成績の情報収集としては1995年に行なわれた希少野生動植物種生息状況調査があります(植田ほか 1996)。それによると、巣立ちヒナ数は 2.2 ± 1.2 羽($n=44$)となっています。今回の 1.4 ± 1.1 羽という値はそれより低い値です。1年のみの情報なので、まだ何とも言えませんが、ハヤブサの巣立ちヒナ数が減少している可能性も頭において、今後得られるデータを精査していきたいと思います。

自然崖の繁殖成績は高いが…

繁殖成績を営巣地タイプ別に比較すると、自然崖では繁殖成功率が高く、人工崖や人工構造物では繁殖成功率が低いという、山田(2023)で示された営巣継続率と類似の傾向が見られました(図2左)。ただし、繁殖に成功した巣の巣立ちヒナ数について見ると、自然崖では巣立ちヒナ数が少なく、人工構造物では多いという傾向が見られました(図2右)。人工構造物では、巣場所の不安定さから失敗が多く発生するものの、ドバトなどが多く生息していて食物環境はよいので、成功すればヒナ数は多いなどといったことがあるのかもしれませんが。

繁殖成績の悪い営巣地の改善

このモニタリングについてもサポートいただいている一般財団法人INPEX JODCO財団とアラブ首長国連邦は、繁殖成績の悪いハヤブサの営巣地の改善をする保護活動を行なう計画をしていて、今年是小松市で、営



図3 砂利を敷いて整備した営巣地に飛来したハヤブサのつがい。

巣地整備の試行を行ないました(図3)。残念ながら、今年は、ハシブトガラスに卵を捕食されてしまい、繁殖には失敗してしまいましたが、来年度以降も継続する予定です。

営巣地の改善の試みは、ほかの場所でも実施していきたいと考えています。皆さんの観察されている営巣地で、繁殖成績が悪く、「こういう改善がしたい」などがありましたら、ぜひ事務局にご連絡ください。実施の検討をさせていただきます。

引用文献

植田睦之・黒沢令子・黒沢隆 (1996) アンケート調査によるハヤブサの分布と保護上の問題点. 平成7年度 希少野生動植物種生息域陽調査報告書. pp 75-82. 環境庁, 東京.

山田一太 (2023) 広島県におけるハヤブサの営巣数の変化と営巣環境. Bird Research 19: S23-S26.

→ <https://doi.org/10.11211/birdresearch.19.S23>